

2009年6月25日

日本学術会議

教養教育・共通教育検討分科会

## 大学と教養

猪木 武徳

国際日本文化研究センター

### 1. 大学の3つの役割：教養教育、専門職教育、研究活動

教育と研究活動が表裏一体だという考え（フンボルトの大学理念）の浸透

工業化による教養教育の後退 — 高等教育は「実利性」を求めるのか

「大学論」の生まれる契機

日本の場合の特殊事情：戦後の不完全な教育改革と、1991年の「大綱化」

戦前と戦後の差：（例）伊藤博文の漢詩、片山哲の白楽天論

「エリート教育」の意図的軽視？

### 2. 人文学と教養の同義性

「フマニタス」という言葉にキケロが込めた特別の意味

紫を染め込もうとする人が、その前にある種の薬剤に羊毛を浸すように、精神も書物 litterae と自由学芸によって予め陶冶され、そして知恵を受け入れる手ほどきと準備をされることが望ましい。（キケロ『ホルテンシウス』断片）

古典の役割

今道友信『ダンテ『神曲』講義』の中の位置づけ

薬なのか、食べ物なのか

### 3. デモクラシーという装置への配慮

専門教育の重視と「私智」の偏重

知識の公共性（学問の自由の二重の意味）と大学の役割